

【プレゼンテーション資料】

**2015年度中間期 連結業績 および
ソニー生命の2015年9月末MCEV**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2015年11月12日

Sony Financial Holdings Inc. All Rights Reserved

＜ネットカンファレンス(電話会議)による決算説明会＞

日時：2015年11月12日(木) 17:00～18:00

内容：「2015年度中間期 連結決算説明会」

発表者：ソニーフィナンシャルホールディングス
常務取締役 清宮 裕晶

ソニーフィナンシャルホールディングス
清宮 でございます。

ただ今より、お手元のプレゼンテーション資料に沿って、当社グループの
2015年度 中間期 連結業績についてご説明いたします。

スライド4をご覧ください。

■ 2015年度中間期連結業績	P.3
■ 2015年度連結業績予想	P.29
■ ソニー生命の2015年9月末MCEV および 経済価値ベースのリスク量	P.31
■ 参考情報	P.34

免責事項:

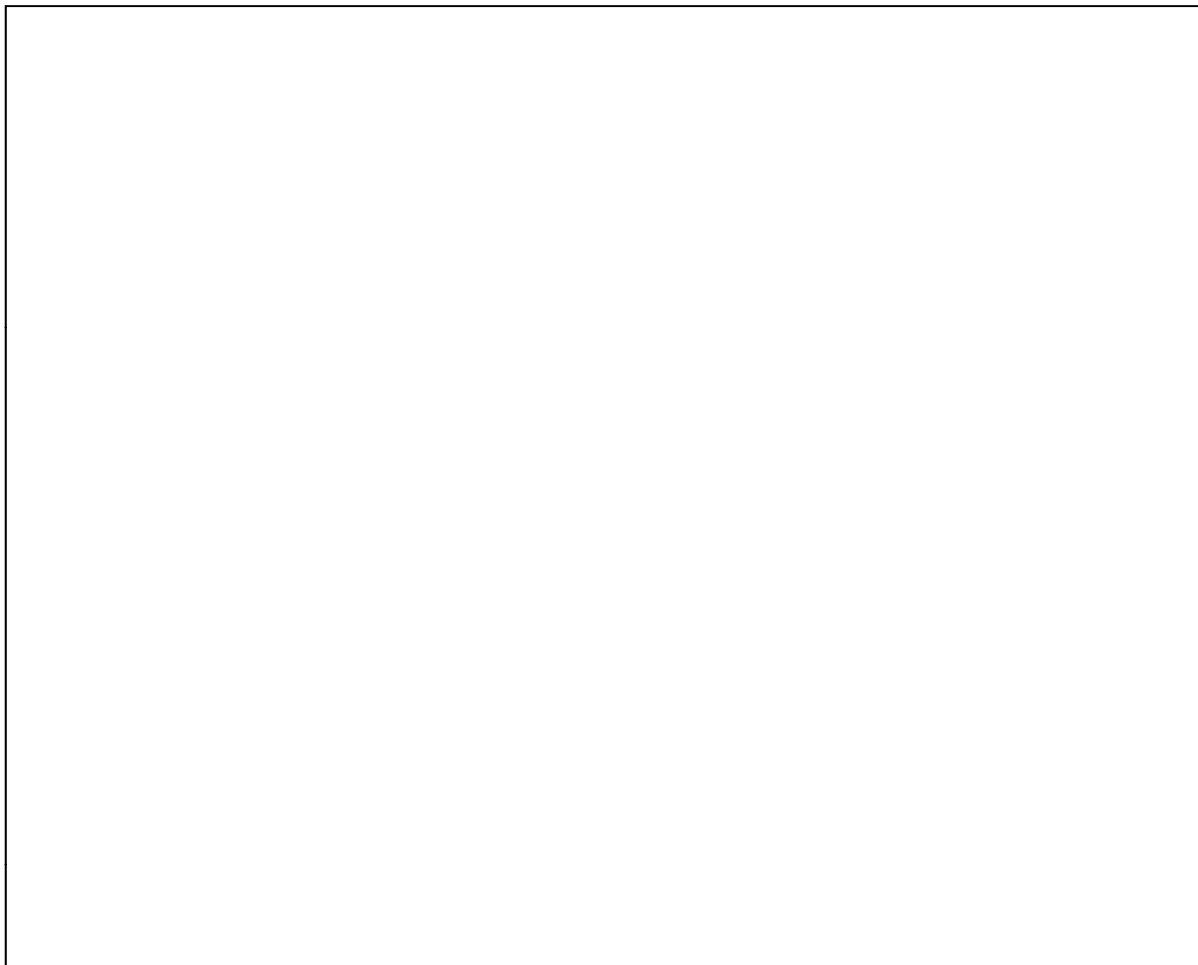
このプレゼンテーション資料に記載されている、ソニーフィナンシャルグループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、過去の事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーフィナンシャルグループの経営者の仮定、決定ならびに判断に基づいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しの上に全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、ソニーフィナンシャルグループが将来の見通しを見直して改訂するとは限りません。ソニーフィナンシャルグループはそのような義務を負いません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わずいかなる投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものでもありません。

※本資料掲載情報は、特に記載のない限り、数値は表示単位未満は切捨て、比率や増減率は四捨五入で表示しています。

また、増減率が1,000%を超える場合や比較対象の一方もしくは両方がマイナスの場合は「-」表示しています。

※「ライフプランナー」はソニー生命の登録商標です。

2015年度中間期連結業績



- ◆ 2015年度上半期は、主要3事業のすべてで経常収益は増加した。ソニー生命では、新契約高が過去最高であった前年同期を大幅に上回っており、営業面は業容の着実な拡大が続いている。
- ◆ 経常利益は、前年同期および期初想定に対して大きく下回る結果となった。これは、ソニー生命において、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が大きく増加したことに加え、好調な新契約獲得により契約初期の費用が増加したことによる。
- ◆ 2015年度上半期の経常利益の進捗を受け、通期の利益予想を引き下げる。なお、今回の変額保険の販売増加は、契約初期に大幅な減益要因になるものの、将来の利益成長に貢献。
- ◆ 中期的な利益見通しに変更はなく、2015年度の配当は、期初予想(1株55円)から変更なし。

2015年度上半期は、主要3事業のすべてで経常収益は増加しました。ソニー生命では、新契約高が過去最高であった前年同期を大幅に上回っており、営業面は業容の着実な拡大が続いています。

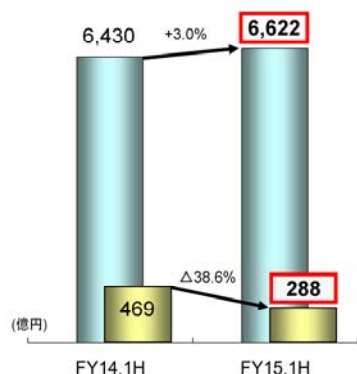
経常利益は、前年同期および期初想定に対して大きく下回る結果となりました。これは、ソニー生命において、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が大きく増加したことに加え、好調な新契約獲得により契約初期の費用が増加したことによります。

2015年度上半期の経常利益の進捗を受け、通期の利益予想を引き下げます。なお、今回の変額保険の販売増加は、契約初期に大幅な減益要因になるものの、将来の利益成長に貢献します。

中期的な利益見通しに変更はなく、2015年度の配当は、期初予想の1株当たり55円から変更はありません。

連結業績ハイライト ①

□ 連結経常収益 □ 連結経常利益



(億円)		FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
生命保険事業	経常収益	5,794	5,964	+169	+2.9%
	経常利益	401	225	△175	△43.8%
損害保険事業	経常収益	464	482	+18	+4.0%
	経常利益	34	27	△6	△19.9%
銀行事業	経常収益	186	190	+3	+2.0%
	経常利益	32	34	+1	+4.3%
セグメント間の 内部経常収益・ 利益(※1)	経常収益	△14	△14	+0	—
	経常利益	1	1	+0	+2.4%
グループ連結	経常収益	6,430	6,622	+192	+3.0%
	経常利益	469	288	△181	△38.6%
	親会社株主に 帰属する 中間純利益	311	191	△120	△38.6%

(※1)主として持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益

(※2)包括利益: FY14.1H・・・447億円、FY15.1H・・・164億円

(億円)		15.3末	15.9末	前年度末比	
グループ連結	純資産	5,506	5,497	△9	△0.2%
	総資産	95,458	99,453	+3,994	+4.2%

まず、当社グループの連結業績についてご説明いたします。

先ほどのスライドでご説明しました通り、
連結経常収益は、すべての事業で増加した結果、前年同期に比べ3.0%増の6,622億円となりました。

連結経常利益は、生命保険事業および損害保険事業で減少、銀行事業において増加した結果、前年同期に比べ38.6%減の288億円となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益は、経常利益が減少したことにより、前年同期比38.6%減の191億円となりました。

次のスライド6では、各事業の業績をまとめて記載しております。後ほどご覧ください。

スライド7をご覧ください。

連結業績ハイライト ②

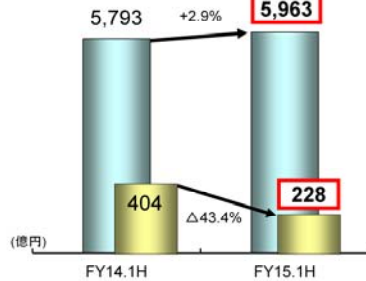
＜前年同期比分析＞

- 生命保険事業: 上半期(4月～9月期)としては過去最高の新契約高を更新し、保有契約高も堅調に推移。経常収益は、市場環境が悪化したことにより特別勘定資産運用益が減少したものの、保険料等収入が増加したことにより、前年同期に比べ増収。経常利益は、前年同期に比べて大幅な減益。これは、一般勘定の有価証券売却益が増加したものの、変額保険において、新契約の増加や市場環境の悪化により、最低保証に係る責任準備金繰入額が大幅に増加したことによるもの。さらに、好調な新契約獲得による費用の増加や、保険金の支払いの増加も、利益の押し下げ要因となった。
- 損害保険事業: 主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことにより、経常収益は前年同期に比べ増収。経常利益は、経常収益が増加したものの、事業費の増加などにより、前年同期に比べて減益。
- 銀行事業: 住宅ローンおよび外貨関連取引に係る収益が増加したことにより、経常収益、経常利益ともに前年同期に比べ増加。
- 連結経常収益は、生命保険事業、損害保険事業および銀行事業のすべての事業で増加した結果、6,622億円(前年同期比3.0%増)。連結経常利益は、生命保険事業および損害保険事業において減少、銀行事業において増加した結果、288億円(前年同期比38.6%減)。親会社株主に帰属する中間純利益は、経常利益が減少したことにより、191億円(前年同期比38.6%減)。

ソニー生命 業績ハイライト (単体)



□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 経常収益は増収、経常利益は減益。
- ◆ 保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、増加。
- ◆ 資産運用収益は、一般勘定における利息及び配当金等収入は増加したものの、特別勘定資産運用益の減少により、減少。
- ◆ 経常利益は、一般勘定の有価証券売却益が増加したものの、変額保険において、新契約の増加や市場環境の悪化により、最低保証に係る責任準備金繰入額が大幅に増加したことにより、減益。さらに、好調な新契約獲得による費用の増加や、保険金の支払いの増加も、利益の押し下げ要因。

	(億円)	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
経常収益		5,793	5,963	+169	+2.9%
保険料等収入		4,540	5,087	+547	+12.1%
資産運用収益		1,208	844	△364	△30.1%
うち利息及び配当金等収入		658	698	+39	+6.0%
うち金銭的信託運用益		26	61	+35	+133.8%
うち有価証券売却益		38	65	+27	+69.5%
うち特別勘定資産運用益		464	—	△464	△100.0%
経常費用		5,389	5,734	+345	+6.4%
保険金等支払金		1,730	1,731	+0	+0.1%
責任準備金等繰入額		2,936	2,872	△64	△2.2%
資産運用費用		45	356	+311	+681.2%
うち特別勘定資産運用損		—	319	+319	—
事業費		568	656	+87	+15.4%
経常利益		404	228	△175	△43.4%
中間純利益		269	148	△120	△44.9%

	(億円)	15.3末	15.9末	前年度末比	
有価証券残高		65,437	68,996	+3,559	+5.4%
責任準備金残高		67,272	70,135	+2,862	+4.3%
純資産		4,325	4,323	△2	△0.0%
その他有価証券評価差額金		1,181	1,177	△3	△0.3%
総資産		73,013	77,588	+4,575	+6.3%
特別勘定資産		7,933	7,966	+32	+0.4%

ソニー生命の業績のハイライトをご説明いたします。

経常収益は、市場環境が悪化したことにより特別勘定資産運用益が減少したものの、保険料等収入が増加したことにより前年同期に比べ2.9%増加の5,963億円となりました。

経常利益は、前年同期に比べて43.4%減少の228億円となり、大幅な減益となりました。これは、一般勘定の有価証券売却益が増加したものの、変額保険において、新契約の増加や市場環境の悪化により、最低保証に係る責任準備金繰入額が大幅に増加したことによるものです。さらに、好調な新契約獲得による費用の増加や、保険金の支払いの増加も、利益の押し下げ要因となりました。

中間純利益は、44.9%減少の148億円となりました。

スライド8では、ソニー生命の主要業績指標を記載しております。
続きまして、スライド9をご覧ください。

ソニー生命 主要業績指標 (単体)

(億円)	FY14.1H	FY15.1H	増減率
新契約高	21,273	26,150	+22.9%
解約・失効高	8,625	9,515	+10.3%
解約・失効率	2.21%	2.33%	+0.12pt
保有契約高	399,527	421,430	+5.5%
新契約年換算保険料	362	430	+18.9%
うち第三分野	65	73	+12.0%
保有契約年換算保険料	7,154	7,591	+6.1%
うち第三分野	1,697	1,761	+3.7%

(注) 新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計。解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率。

<主な増減要因>

◆ 変額保険や家族収入保険の販売好調により、増加。

◆ 変額保険の販売好調により、増加。

(億円)	FY14.1H	FY15.1H	増減率
資産運用損益(一般勘定)	698	807	+15.7%
基礎利益	385	144	△62.5%
順ざや額	55	73	+32.7%

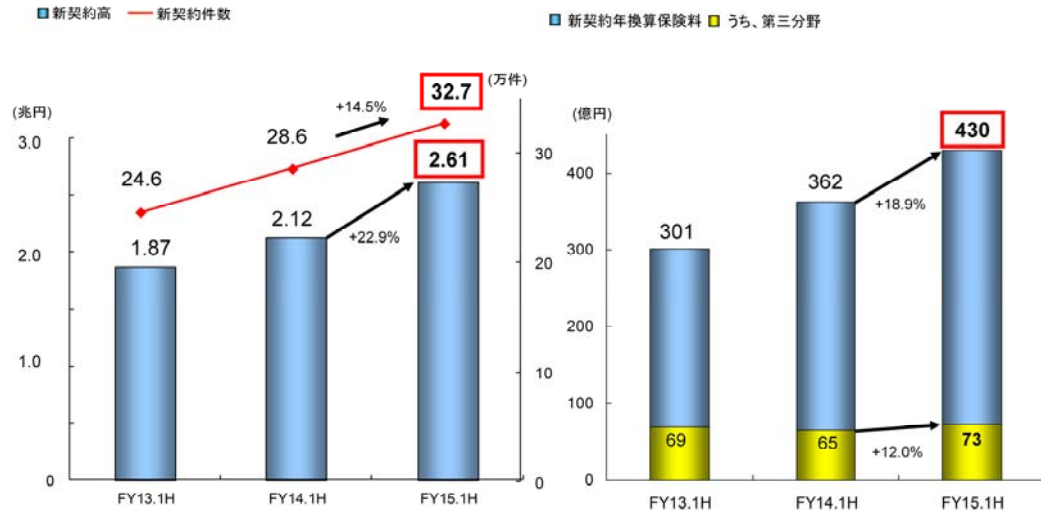
◆ 順ざや額は増加したものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が、新契約の増加や市場環境の悪化により大幅に増加したことにより、減少。さらに、好調な新契約獲得による費用の増加や、保険金の支払いの増加も、利益の押し下げ要因。

	15.3末	15.9末	前年度末比
単体 ソルベンシー・マージン比率	2,555.0%	2,657.7%	+102.7pt

ソニー生命の業績 (単体) ①

新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)



(左側のグラフ)

棒グラフで示しております新契約高は、前年同期比22.9%増の2兆6,150億円となり、上半期としては過去最高の新契約高を更新しました。

これは、死亡保障強化の取り組みを受けて、変額保険および家族収入保険の販売が増加したことによるものです。

加えて、変額保険については、商品改定前の駆け込み需要により、販売が大幅に増加しました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年同期比14.5%増の32万7千件となりました。

(右側のグラフ)

新契約年換算保険料は、変額保険の販売好調により、前年同期比18.9%増の430億円となりました。

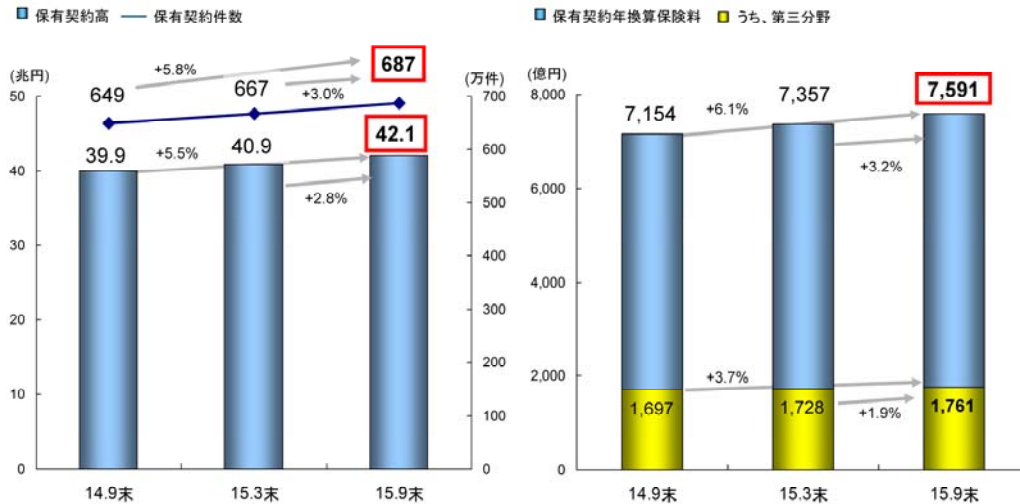
このうち第三分野は、前年同期比12.0%増の73億円となりました。

スライド10をご覧ください。

ソニー生命の業績 (単体) ②

保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

保有契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)



新契約および解約・失効等を織り込んだ保有契約の状況についてご説明いたします。

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております保有契約高は、好調な新契約獲得により、前年同期末に比べ5.5%増加の42兆1千億円となりました。

折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年同期末に比べ5.8%増加の687万件となりました。

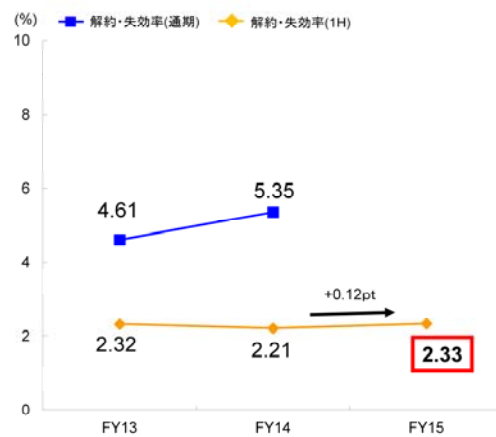
(右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は前年同期末に比べ6.1%増加の7,591億円となりました。このうち第三分野は、前年同期末に比べ3.7%増加の1,761億円となりました。

スライド11をご覧ください。

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険)

* 解約・失効率は、契約高の減額または増額および復活を含めない
解約・失効高を年度始の保有契約高で除した率

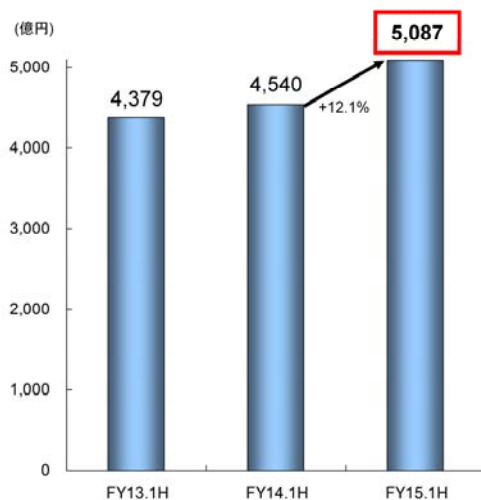


解約・失効率は、前年度に比べて0.12ポイント上昇の2.33%となりました。

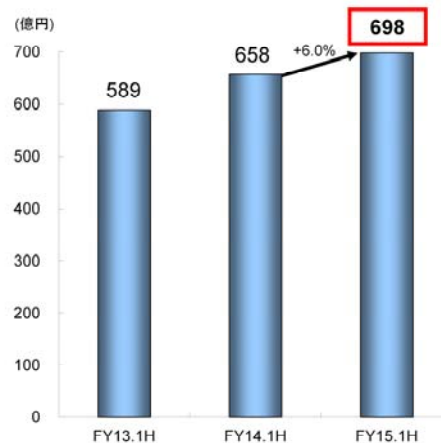
続きまして、スライド12をご覧ください。

ソニー生命の業績 (単体) ④

保険料等収入



利息及び配当金等収入



(左側のグラフ)

保険料等収入は、保有契約高が堅調に推移したことに加え、変額保険や今年5月発売の新商品「一時払終身保険(無告知型)」の販売好調により、前年同期に比べ12.1%増加の5,087億円となりました。

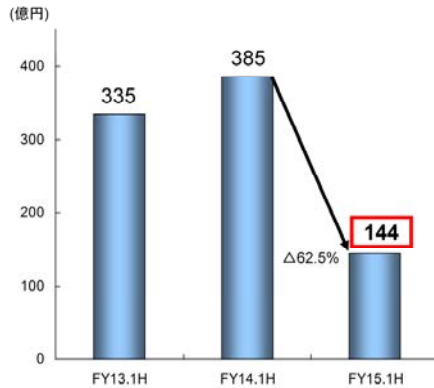
(右側のグラフ)

利息及び配当金等収入は、業容拡大による運用資産の拡大にともない、前年同期に比べ6.0%増加の698億円となりました。

次のスライド13をご覧ください。

ソニー生命の業績 (単体) ⑤

基礎利益

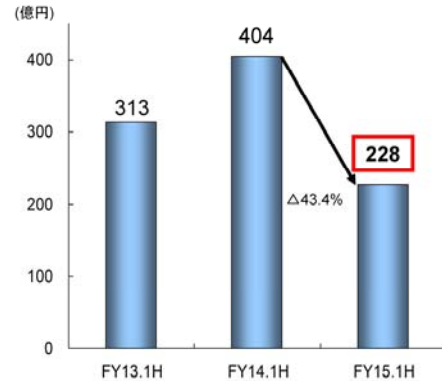


(ご参考)基礎利益へのインパクト

	FY13.1H	FY14.1H	FY15.1H
順ざや額	33	55	73
変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額 (△)(注1)	△12	△25	△221
標準利率改定の影響(注2)	△57	—	—
(積立利率変動型終身保険関連分)			

(注1)変額保険の最低保証に係る責任準備金、危険準備金のマイナスは繰入額を表します。キャピタル損益は、変額保険に係るヘッジ損益を除きます。
(注2)2013年5月に保険料率改定を行った積立利率変動型終身保険における、料率改定前の販売増加による影響額を表します。

経常利益



(ご参考)基礎利益からの主な差異

	FY13.1H	FY14.1H	FY15.1H
キャピタル損益(ヘッジ損益除く)(注1)	△0	44	103
変額保険に係るヘッジ損益	—	—	14
危険準備金繰入額 (△)(注1)	△21	△24	△31

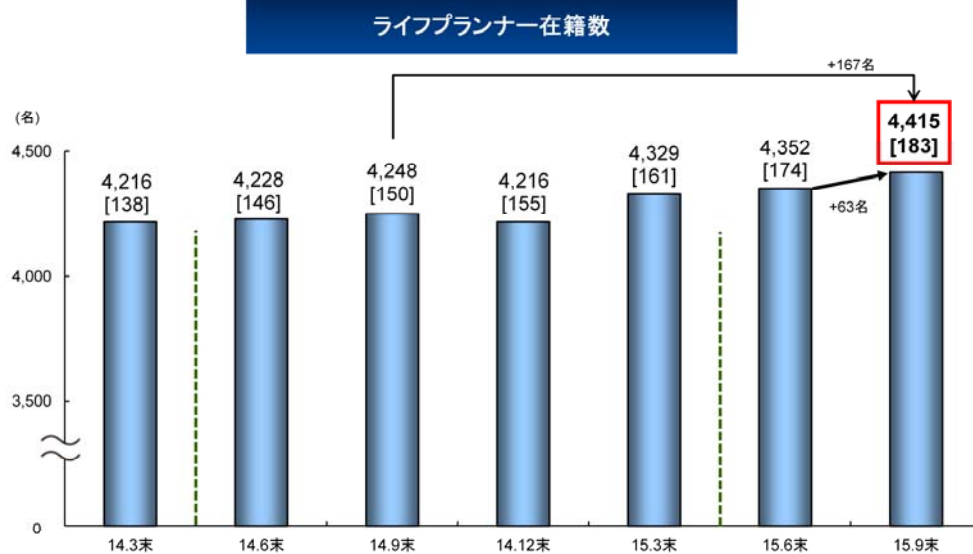
(左側のグラフ)

基礎利益は、順ざや額は増加したものの、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が、新契約の増加や市場環境の悪化により大幅に増加したことで、前年同期に比べ、62.5%減少の144億円となりました。さらに、好調な新契約獲得による費用の増加や、保険金の支払いの増加も、利益の押し下げ要因となりました。

(右側のグラフ)

経常利益につきましては、一般勘定における有価証券売却益などが増加したものの、基礎利益の減少により、前年同期に比べ、43.4%減少の228億円となりました。

次のスライド14をご覧ください。



(注) []は、嘱託ライフプランナー数と契約ライフプランナー数の合計で、内数です。
嘱託ライフプランナーおよび契約ライフプランナーとは、定年退職を迎えた後も、販売状況などの一定の要件を満たすことで、ライフプランナーとしての活動を続けている営業社員です。

ライフプランナー在籍数は、前四半期末から63名、前年同期末から167名増加し、4,415名となりました。

ライフプランナーの採用を担う営業所長登用の積極化など、これまでの採用強化策が奏功し、陣容は着実に増加しています。

スライド15をご覧ください。

ソニー生命の業績 (単体) ⑦

一般勘定資産の内訳

(億円)	15.3末		15.9末	
	金額	割合	金額	割合
公社債	56,068	86.2%	60,274	86.6%
株式	424	0.7%	340	0.5%
外国公社債	1,055	1.6%	660	0.9%
外国株式等	260	0.4%	255	0.4%
金銭の信託	3,132	4.8%	2,891	4.2%
約款貸付	1,623	2.5%	1,678	2.4%
不動産 ^(注)	1,177	1.8%	1,168	1.7%
現預金・コールローン	568	0.9%	1,539	2.2%
その他	767	1.2%	813	1.2%
合計	65,080	100.0%	69,622	100.0%

(注)「不動産」については、土地・建物・建設仮勘定を合計した金額を計上しています。

<資産運用状況>

金利リスクの低減を目的として、保険契約の持つ長期の負債特性に合わせて超長期債の購入を継続

〔債券のDuration〕

2014. 3末 19.7 年

2015. 3末 20.3 年

2015. 9末 20.4 年

■「金銭の信託」は主に公社債を中心に運用。

■一般勘定資産における公社債(金銭の信託で運用されているものを含む)の実質的な構成比

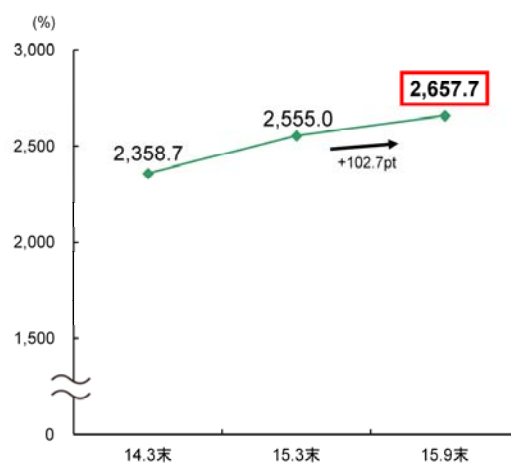
2015.9末・・・90.8% (2015.3末・・・91.0%)

前年度末と比較した、2015年9月末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

引き続き、超長期債への投資を推進しました。

次のスライド16をご覧ください。

単体ソルベンシー・マージン比率

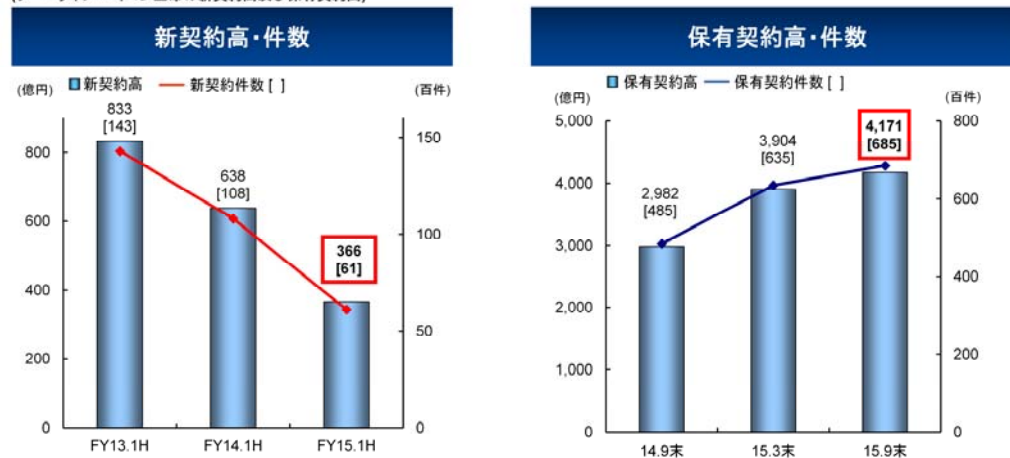


ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から102.7ポイント増加の2,657.7%となり、引き続き高い水準を維持しております。

続きまして、スライド17をご覧ください

年金事業の業績

(ソニーライフ・エイゴン生命の新契約高及び保有契約高)



ソニーライフ・エイゴン生命およびSA Reinsurance の中間純利益 (△損失)

(億円)	FY14.1H	FY15.1H	前年同期差
ソニーライフ・エイゴン生命	△24	△7	+17
SA Reinsurance	17	△0	△17

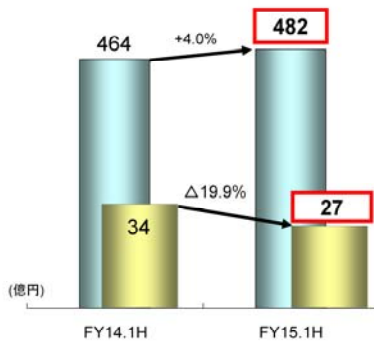
注)ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、SFHの持分法適用関連会社です。
SA Reinsuranceの業績数値は、米国会計原則に準拠しています。SFHの親会社株主に帰属する中間純利益には上記の金額に対する持分相当(50%)が反映されています。

変額年金保険を販売しております、ソニーライフ・エイゴン生命については、新契約高が前年同期に比べ減少しました。

次のスライド18からソニー損保の業績についてご説明いたします。

ソニー損保 業績ハイライト

□ 経常収益 □ 経常利益



- ◆ 前年同期比 経常収益は増収、経常利益は減益。
- ◆ 経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、増加。
- ◆ 経常利益は、経常収益が増加したものの、事業費の増加などにより、減益。

	(億円)	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
経常収益		464	482	+18	+4.0%
保険引受収益		457	476	+18	+4.0%
資産運用収益		6	6	+0	+2.3%
経常費用		429	454	+25	+5.9%
保険引受費用		320	334	+14	+4.5%
資産運用費用		0	0	+0	—
営業費及び一般管理費		109	120	+10	+9.9%
経常利益		34	27	△6	△19.9%
中間純利益		23	19	△4	△16.8%

	(億円)	15.3末	15.9末	前年度末比	
責任準備金残高		865	913	+48	+5.6%
純資産		247	272	+24	+10.0%
総資産		1,579	1,649	+69	+4.4%

ソニー損保の経常収益は、主力の自動車保険を中心に正味収入保険料が増加したことから、前年同期比4.0%増加の482億円となりました。

経常利益は、経常収益が増加したものの、事業費の増加などにより、前年同期比19.9%減少の27億円となりました。

中間純利益は、前年同期比16.8%減少の19億円となりました。

スライド19、20では、ソニー損保の主要業績指標、種目別保険引受の状況を記載しております。後ほどご覧ください。

続きまして、スライド21 から、ソニー損保の業績の詳細をご説明いたします。

ソニー損保 主要業績指標

	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
(億円)				
元受正味保険料	450	469	+4.2%	◆ 主力の自動車保険を中心に増加。
正味収入保険料	457	475	+4.0%	
正味支払保険金	224	230	+2.7%	
保険引受利益	28	21	△24.6%	
正味損害率	56.4%	55.9%	△0.5pt	
正味事業費率	25.4%	26.7%	+1.3pt	◆ 正味事業費率は、主に広告宣伝費の増加により、上昇。
コンバインド・レシオ	81.8%	82.7%	+0.9pt	

(注) 正味損害率 = (正味支払保険金 + 損害調査費) ÷ 正味収入保険料
 正味事業費率 = 保険引受に係る事業費 ÷ 正味収入保険料

	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
E.I 損害率	62.4%	62.4%	+0.0pt	◆ E.I 損害率は、自動車保険の事故率が低位安定していることから、横ばい。
E.I 損害率 + 正味事業費率	87.8%	89.1%	+1.3pt	

(注) E.I 損害率 = (正味支払保険金 + 支払備金繰入額 + 損害調査費) ÷ 既経過保険料
 [除く地震保険、自賠責保険]

	15.3末	15.9末	前年度末比
保有契約件数	170万件	175万件	+5万件 +3.1%
単体 ソルベンシー・マージン比率	629.6%	676.7%	+47.1pt

(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

ソニー損保 種目別保険引受の状況

元受正味保険料

(百万円)	FY14.1H	FY15.1H	増減率
火 災	119	199	+66.2%
海 上	—	—	—
傷 害	4,277	4,321	+1.0%
自 動 車	40,671	42,442	+4.4%
自 賠 責	—	—	—
合 計	45,069	46,963	+4.2%

正味収入保険料

(百万円)	FY14.1H	FY15.1H	増減率
火 災	16	28	+73.5%
海 上	84	22	△73.7%
傷 害	4,411	4,461	+1.1%
自 動 車	40,568	42,349	+4.4%
自 賠 責	671	712	+6.2%
合 計	45,752	47,574	+4.0%

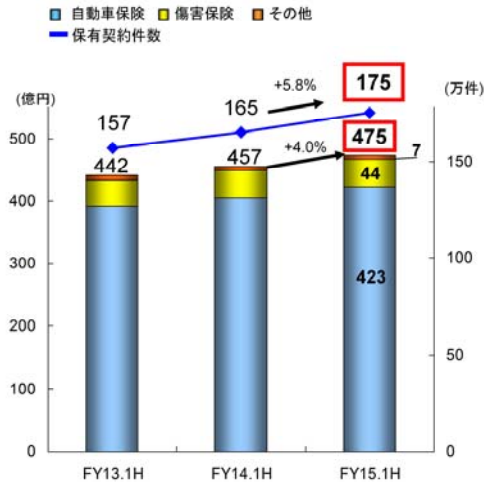
正味支払保険金

(百万円)	FY14.1H	FY15.1H	増減率
火 災	2	0	△65.9%
海 上	73	100	+36.4%
傷 害	1,128	1,207	+7.1%
自 動 車	20,616	21,096	+2.3%
自 賠 責	601	628	+4.6%
合 計	22,420	23,033	+2.7%

(注)「傷害」にはガン重点医療保険が含まれる。

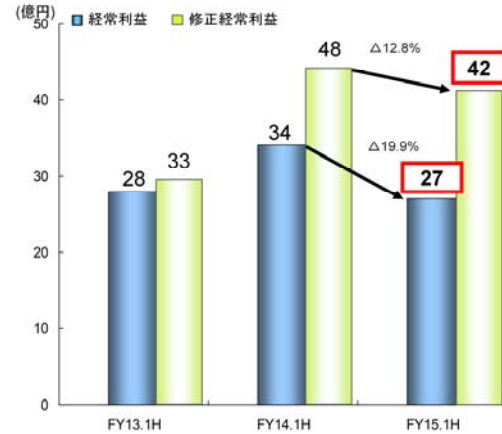
ソニー損保の業績 ①

正味収入保険料と保有契約件数



(注) 保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。
両方で正味収入保険料の99%を占める。
傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

経常利益と修正経常利益



※修正経常利益＝経常利益＋異常危険準備金繰入額

(ご参考) 異常危険準備金繰入状況 (億円)			
	FY13.1H	FY14.1H	FY15.1H
異常危険準備金繰入額	4	14	15

(注) 異常危険準備金繰入額のプラスは繰入額を表します。

(左側のグラフ)

保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合計で、前年同期末比で5.8%増加の175万件となりました。

正味収入保険料は、自動車保険の販売が堅調だったことから、前年同期に比べ4.0%増加し、475億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益は、先のご説明のとおりです。

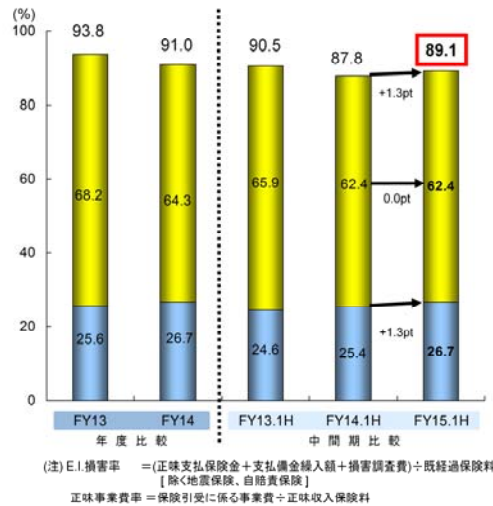
なお、修正経常利益は、経常利益から異常危険準備金繰入・戻入の影響を除いたもので、損益の実態を表すものとして社内で使用している管理指標です。修正経常利益は、42億円となりました。

スライド22をご覧ください。

ソニー損保の業績 ②

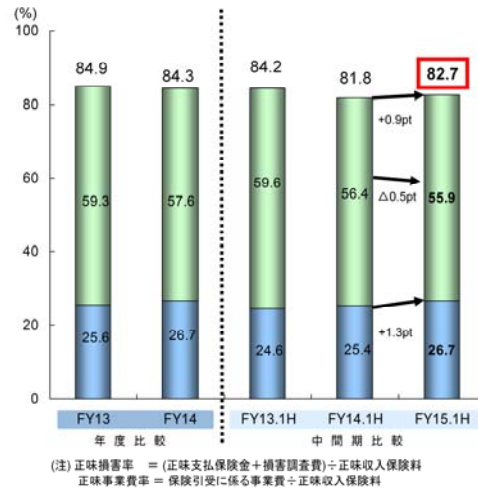
E.I.損害率 + 正味事業費率

■ E.I.損害率 ■ 正味事業費率



<参考> コンバインド・レシオ (正味損害率 + 正味事業費率)

■ 正味損害率 ■ 正味事業費率



(左側のグラフ)

E.I.損害率は、前年同期横ばいの62.4%となりました。自動車保険の事故率は低位安定しております。

正味事業費率は、主に広告宣伝費の増加により、前年同期に比べ1.3ポイント増加し、26.7%となりました。

この結果、E.I.損害率と正味事業費率を合わせた合算率は、前年同期に比べ1.3ポイント上昇し、89.1%となりました。

(右側のグラフ)

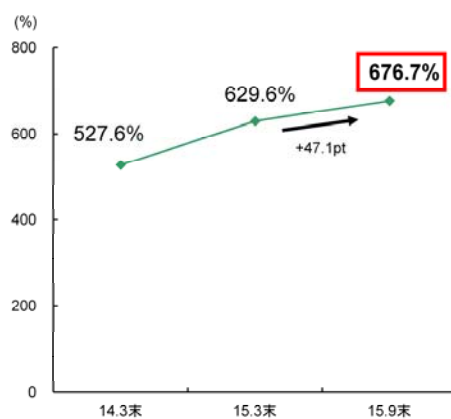
正味損害率は、前年同期に比べ0.5ポイント低下し55.9%となりました。

正味損害率は、支払備金繰入額を反映していないなどの点で、E.I.損害率とは計算方法が異なります。

正味損害率と正味事業費率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ0.9ポイント上昇し、82.7%となりました。

スライド23をご覧ください。

単体ソルベンシー・マージン比率



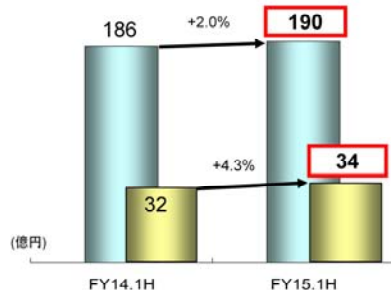
単体ソルベンシー・マージン比率は、前年度末に比べ47.1ポイント上昇し、676.7%となりました。

次のスライド24から、ソニー銀行の業績についてご説明いたします。

ソニー銀行 業績ハイライト (連結・単体)



□ 連結経常収益 □ 連結経常利益



<連結>

◆住宅ローンおよび外貨関連取引にかかる収益が増加したことにより、経常収益、経常利益ともに増加。

<銀行単体>

◆業務粗利益・業務純益ともに増加。
 ・資金運用収支は減少。有価証券利息配当金が減少。
 ・役務取引等収支は増加。住宅ローンにかかる手数料収入が増加。
 ・その他業務収支は増加。前年同期に計上した債券売却益は剥落したものの、顧客の活発な外貨取引を背景に外国為替売買益が増加。

<連結>

(億円)	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
連結経常収益	186	190	+3	+2.0%
連結経常利益	32	34	+1	+4.3%
親会社株主に帰属する 中間純利益	20	22	+1	+9.0%

<銀行単体>

(億円)	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
経常収益	173	175	+2	+1.4%
業務粗利益	106	109	+3	+3.1%
資金運用収支	82	80	△2	△2.7%
役務取引等収支	△3	2	+5	—
その他業務収支	26	27	+0	+1.7%
営業経費	75	76	+1	+1.6%
業務純益	31	33	+2	+6.5%
経常利益	32	33	+1	+4.3%
中間純利益	20	22	+1	+8.9%

(億円)	15.3末	15.9末	前年度末比	
純資産	770	761	△8	△1.1%
その他有価証券評価差額金	66	33	△32	△49.3%
総資産	20,625	19,983	△641	△3.1%

ソニー銀行の連結経常収益は前年同期比2.0%増加の190億円、連結経常利益は前年同期比4.3%増加の34億円となりました。

これは、住宅ローンおよび外貨関連取引にかかる収益が増加したことによるものです。

ソニー銀行単体も、連結同様の要因により増収増益となりました。

業務粗利益は、住宅ローンにかかる手数料収入の増加により役務取引等収支が改善し、前年同期比3.1%増加の109億円となりました。業務純益は、前年同期に比べ6.5%増加し、33億円となりました。

スライド25では、ソニー銀行の主要業績指標を記載しております。
 スライド26をご覧ください。

ソニー銀行 主要業績指標 (単体) ①



<主な増減要因>

(億円)	14.9末	15.3末	15.9末	前年度末比	
預かり資産残高	19,452	20,079	19,157	△921	△4.6%
預金	18,246	18,782	17,952	△830	△4.4%
円預金	14,838	15,510	14,764	△746	△4.8%
外貨預金	3,408	3,272	3,187	△84	△2.6%
投資信託	1,205	1,296	1,205	△91	△7.0%
貸出金残高	10,921	11,871	12,667	+795	+6.7%
住宅ローン	9,832	10,743	11,544	+800	+7.5%
その他	1,088	1,128	1,123 ^{*1}	△4	△0.4%
口座数	101万件	105万件	108万件	+2万件	+2.1%
不良債権比率 ^{*2} (金融再生法開示債権ベース)	0.32%	0.28%	0.25%	△0.03pt	
自己資本比率 (国内基準) ^{*3}	11.80%	10.66%	10.59%	△0.07pt	

◆ 円預金残高は、金利競争の高まりにより、円定期預金が減少。

◆ 外貨預金残高は、為替市場が円高に振れたことによる円換算の影響で、減少。

◆ 貸出金は、住宅ローンの伸びにより、残高増加。

*1 うち1,060億円は法人向け

*2 不良債権(金融再生法開示債権)/総与信額

*3 28ページの自己資本比率(国内基準)の推移ご参照

ソニー銀行 主要業績指標 (単体) ②

<参考> 社内管理ベース

(億円)	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比	
業務粗利益	106	109	+3	+3.2%
資金収支 ¹ ①	90	91	+1	+1.6%
手数料等収支 ² ②	0	7	+6	—
その他収支 ³	15	10	△5	△32.7%
コアベース業務粗利益 (A) =①+②	90	99	+8	+9.3%
営業経費等 ③	74	76	+2	+3.6%
コアベース業務純益 =(A)-③	16	22	+5	+34.5%

■ 社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

*1 資金収支 …… 資金運用収支+その他業務収支に計上されている

実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

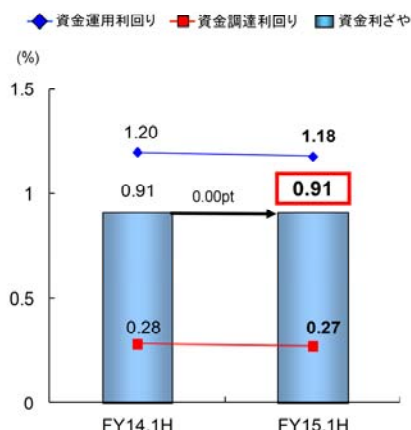
*2 手数料等収支 …… 役務取引等収支+その他業務収支に計上されている
お客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支 …… その他業務収支から *1 と *2 の調整分を控除したもの
(主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益)

■ コアベース

社内管理ベースの その他収支 (主な内容は債券関係損益およびデリバティブ
関連損益) を除いたもので、ソニー銀行の基礎的な利益を表すもの

<参考> 資金利ざや(社内管理ベース)の推移



このスライドでは、ソニー銀行の本業における収益力をより適切にご理解いただくために、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明いたします。

(左側のテーブル)

資金収支は、住宅ローンを好調に積み上げたことなどにより、前年同期比1.6%増加の91億円となりました。手数料等収支は、住宅ローンおよび顧客の活発な外貨預金取引にともなう手数料収入の増加により、6億円増加の7億円となりました。

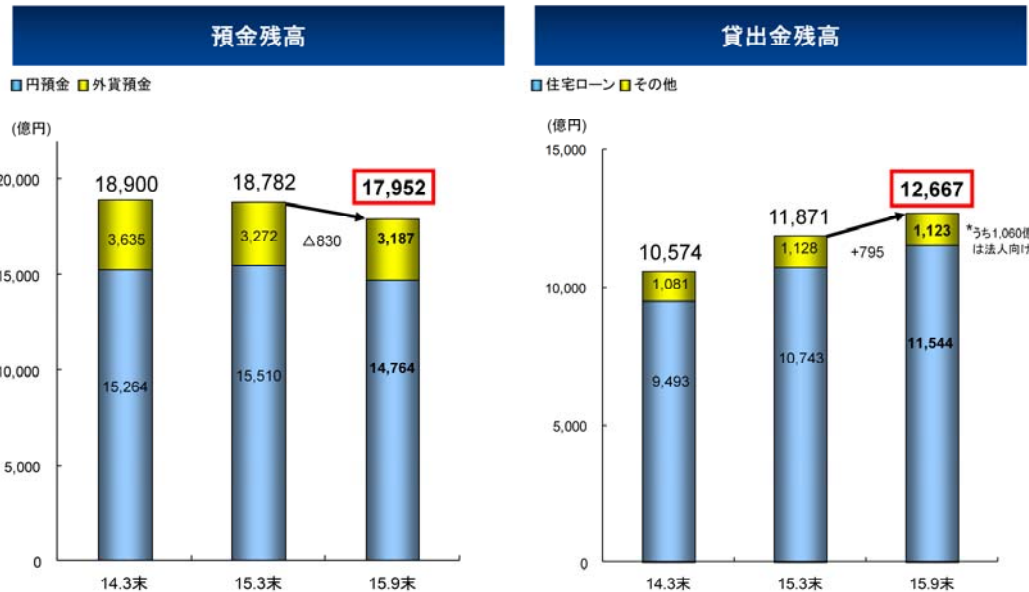
その結果、コアベース業務粗利益は、前年同期に比べ9.3%増加の99億円、コアベース業務純益も34.5%増加の22億円となりました。

(右側のグラフ)

青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りは、1.18%となりました。赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは、0.27%となりました。その結果、棒グラフで示しております資金利ざやは、0.91%となりました。

スライド27をご覧ください。

ソニー銀行の業績 (単体) ①



業容の推移について、前年度末からの増減をご説明いたします。

(左側のグラフ)

預金残高は前年度末に比べ830億円減少し、1兆7,952億円となりました。うち、円預金の残高は、金利競争の高まりにより円定期預金が減少し、前年度末比746億円減少の1兆4,764億円となりました。また、外貨預金の残高は、為替市場が円高に振れたことにともなう円換算の影響で、前年度末比84億円減少の3,187億円となりました。

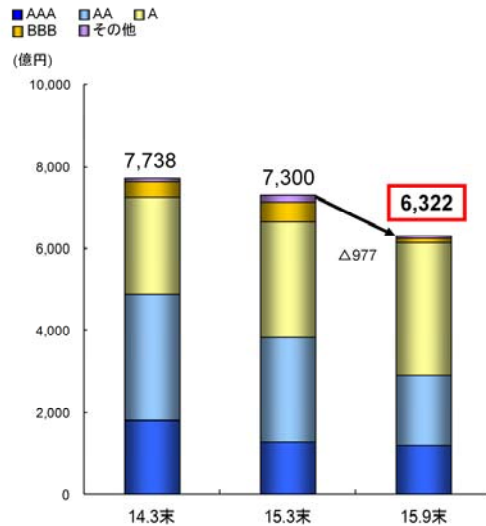
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローンが好調に増加し、前年度末に比べ795億円増加の1兆2,667億円となりました。

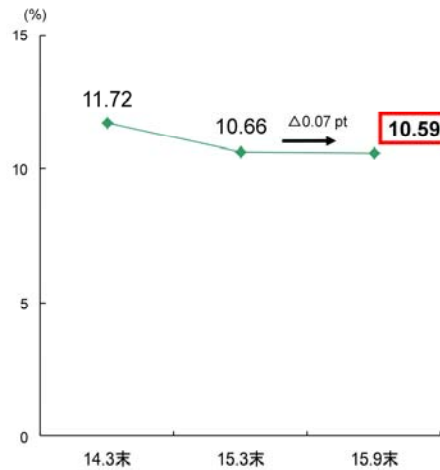
スライド28をご覧ください。

ソニー銀行の業績 (単体) ②

格付別の有価証券残高の推移



自己資本比率(国内基準)の推移



(注)平成18年(2006年)金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出している。

(左側のグラフ)

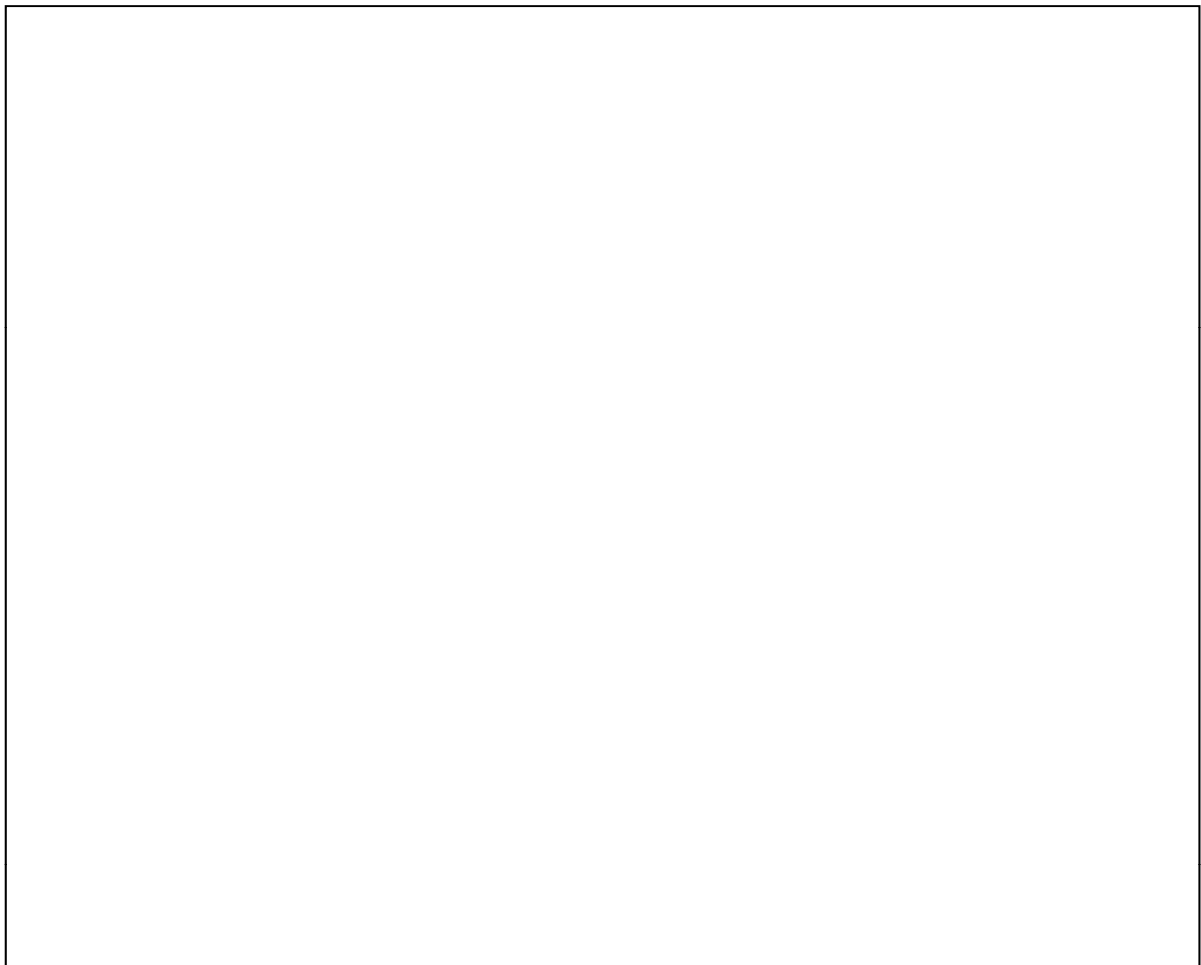
有価証券残高は、前年度末に比べ977億円減少し、6,322億円となりました。
引き続き、高格付の債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、10.59%となりました。
前年度末比0.07ポイントの低下ですが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

以上で、3社の業績のご説明を終わります。
続きましてスライド30をご覧ください。

2015年度連結業績予想



2015年度連結業績予想



2015年4月30日に公表した数値から
連結経常収益を上方修正、連結経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正

(億円)	FY2014 (通期実績)	FY2015 (通期予想)	前年度比	FY15.1H (中間期実績)	進捗率
連結経常収益	13,523	13,000⇒13,400	△3.9%⇒△0.9%	6,622	49.4%
うち生命保険事業	12,239	11,680⇒12,128	△4.6%⇒△0.9%	5,964	49.2%
うち損害保険事業	930	971	+4.4%	482	49.7%
うち銀行事業	384	368	△4.2%	190	51.7%
連結経常利益	900	850⇒720	△5.6%⇒△20.1%	288	40.0%
うち生命保険事業	783	741⇒614	△5.4%⇒△21.6%	225	36.8%
うち損害保険事業	42	44	+4.5%	27	62.5%
うち銀行事業	73	64	△12.7%	34	53.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	544	570⇒470	+4.7%⇒△13.6%	191	40.7%

■生命保険事業

経常収益は、上半期実績が期初想定を上回って推移したことにより、通期見通しを上方修正しました。

経常利益は、以下の理由により通期見通しを下方修正しました。

- 上半期において、有価証券売却益が期初想定を上回ったものの、変額保険を中心に好調な新契約獲得や市場環境の悪化の影響もあり、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が期初想定を大きく上回ったこと。
- 下半期については、債券入れ替えにともなう有価証券売却益が期初想定を上回る見込みである一方、引き続き変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が期初想定を上回る可能性などを勘案し、ほぼ期初想定どおりの見込みであること。

■損害保険事業

上半期実績はほぼ期初想定どおりに推移し、下半期についても堅調に推移すると見込まれるため、通期見通しは据え置きました。

■銀行事業

上半期実績は住宅ローンや外貨関連取引に係る収益が期初想定を上回って推移したものの、下半期において営業経費の増加を見込むことなどから、通期見通しは据え置きました。

2015年度 連結業績予想は、生命保険事業の上半期業績が期初の想定と乖離して進捗したことを受け、2015年4月30日に公表した数値から、連結経常収益を上方修正、連結経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正しております。

なお、下半期については、ソニー生命において、債券入れ替えにともなう有価証券売却益が期初想定を上回る見込みである一方、引き続き変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が期初想定を上回る可能性などを勘案し、ほぼ期初想定どおりとしています。

スライド32をご覧ください。

ソニー生命の2015年9月末MCEV および経済価値ベースのリスク量

2015年9月末のMCEVの計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。
また、2015年9月末については、一部簡易な計算を実施しております。

ソニー生命のMCEV



(億円)	15.3末	15.6末	15.9末	増減 対15.3末	増減 対15.6末
MCEV	13,229	13,888	13,882	+653	△6
修正純資産	11,192	10,171	10,827	△365	+656
保有契約価値	2,037	3,718	3,055	+1,018	△663

(億円)	15.3末	15.6末	15.9末
新契約価値	486 (12カ月)	125 (3カ月)	201 (6カ月)
新契約マージン	3.8%	3.2%	2.6%

(注) 新契約マージンは「新契約価値 / 収入保険料現価」です。

(注) 2015年6月末、9月末の計算は、2015年3月末の前提条件から経済前提と解約・失効率をアップデート。

◆ MCEV増減要因

- ・ 2015年6月末に比べ、新契約獲得は好調であったものの、金利の低下などにより、6億円減少。
- ・ 2015年3月末に比べ、金利の上昇や新契約の獲得などにより、653億円増加。

◆ 新契約価値・新契約マージン

- ・ 新契約価値は、6カ月で201億円(年換算402億円)。
- ・ 新契約マージンは、2015年6月末に比べ、金利の低下などにより、0.6ポイント低下。
2015年3月末に比べ、商品構成の変化の影響などにより、1.2ポイント低下。

*新契約価値の変動については、参考情報P.41をご覧ください。

*日本国債利回りの推移については、参考情報P.44をご覧ください。

ソニー生命のMCEVは、1兆3,882億円となりました。

2015年6月末に比べ、新契約獲得は好調であったものの、金利の低下などにより6億円減少しました。

新契約価値については、6カ月間で201億円(年換算402億円)となりました。

新契約マージンは、2015年6月末に比べ、金利の低下などにより0.6ポイント低下し、2.6%となりました。また、2015年3月末に比べ、商品構成の変化の影響などにより、1.2ポイント低下しました。

変額保険につきましては、2015年8月に続き、2016年1月の商品改定により、収益性の改善を図ります。

次に、経済価値ベースのリスク量について、ご説明いたします。

スライド33をご覧ください。

ソニー生命の経済価値ベースのリスク量



(億円)	15.3末	15.6末	15.9末
保険リスク	7,242	7,328	7,529
市場関連リスク	2,870	3,000	2,846
うち金利リスク*	2,185	2,277	2,202
オペレーショナルリスク	259	263	262
カウンターパーティリスク	18	21	31
分散効果	△2,934	△2,999	△3,001
経済価値ベースのリスク量	7,455	7,612	7,668

*ただし、市場関連リスク内での分散効果考慮前

(億円)	15.3末	15.6末	15.9末
MCEV	13,229	13,888	13,882
ESR	177%	182%	181%

(注) 経済価値ベースのリスク量とは、ソニー生命が保有する各種リスク(保険リスク、市場関連リスク等)を、市場整合的な方法で総合的に評価したリスク総量です。

(注) 経済価値ベースのリスク量の測定においては、1年VaR99.5%水準とし、EUソルベンシー II (QIS5)の標準モデルを参考にした内部モデルを採用しています。

(注) ESRは「MCEV / 経済価値ベースのリスク量」です。

◆ 市場関連リスクを抑制することで、健全な水準を維持。

経済価値ベースのリスク量は7,668億円となり、うち保険リスクは7,529億円、市場関連リスクは2,846億円となりました。

経済価値ベースのリスク量は、保有契約の増加などにより2015年6月末に比べ増加しましたが、経済価値ベースのリスク量に対するMCEVの比率であるESRは181%となり、引き続き健全な水準を維持しております。

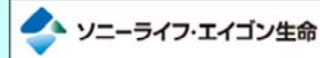
以上で説明を終了いたします。
ありがとうございました。

参考情報

その他トピックス ①

ソニーライフ・エイゴン生命の概要

営業開始: 2009年12月1日
 資本金: 260億円(資本準備金130億円を含む)
 株主: ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
 取扱商品: 変額個人年金保険
 販売チャネル: ライフプランナー、および銀行等(計22社) *2015年11月12日現在



SA Reinsurance の概要

設立日: 2009年10月29日
 資本金: 110億円
 株主: ソニー生命 50%、エイゴン・インターナショナルB.V. 50%
 事業内容: 再保険業

注)ソニーライフ・エイゴン生命とSA Reinsuranceは、ソニー生命とエイゴン・インターナショナルの折半出資(50:50)による合弁会社であり、持分法適用関連会社です。

ソニー銀行における、ソニー生命による住宅ローンの取扱い状況

- 2015年9月末の住宅ローン残高の**21%**
 2015年度中間期の住宅ローン新規融資実行金額の**15%**
 ※銀行代理業務取扱い開始: 2008年1月



ソニー損保における、ソニー生命による自動車保険取扱い状況

- 2015年度中間期の新規自動車保険契約件数の**4%**
 ※自動車保険取扱い開始: 2001年5月



その他トピックス ②

＜2015年度第2四半期以降の主な取組み＞

- | | | |
|-------------|----|--|
| 2015年7月 1日 | 損保 | 「熊本コンタクトセンター」業務開始 |
| 2015年7月 13日 | 銀行 | 新カードローン取り扱い開始 |
| 2015年9月 28日 | 介護 | ソニー・ライフケアグループ初の新設有料老人ホーム「ソナーレ祖師ヶ谷大蔵」を発表
<small>※2016年4月、東京都世田谷区祖師谷に開設予定</small> |
| 2015年10月19日 | 銀行 | 【新商品】「Sony Bank WALLET」の先行受け付け開始
<small>※2016年1月にサービス開始予定</small> |
| 2015年11月 2日 | 生保 | 【新商品】『生前給付定期保険(生活保障型)』の発売 |

ソニー生命の保有する有価証券 (一般勘定)



有価証券の時価情報

売買目的有価証券以外の有価証券のうち、時価のあるもの

(億円)

区 分	14.3末			15.3末			15.9末		
	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益	帳簿価額	時価	差損益
満期保有目的の債券	44,096	48,399	4,303	48,787	57,182	8,394	51,552	59,355	7,802
責任準備金対応債券	—	—	—	—	—	—	1,578	1,598	20
その他の有価証券	10,655	11,898	1,243	10,078	11,766	1,688	9,395	10,965	1,569
公社債	10,359	11,467	1,108	9,746	11,201	1,455	9,072	10,454	1,382
株式	122	212	89	134	294	160	136	259	123
外国証券	158	194	35	194	264	69	184	247	63
その他の証券	14	25	10	3	6	3	1	2	1
合 計	54,751	60,298	5,547	58,865	68,949	10,083	62,526	71,919	9,392

(注1) 本表には、金銭の信託のうち売買目的有価証券以外のものを含んでいます。

(注2) 上表の満期保有目的の債券には、デリバティブを組み込んだ金融商品(元本確保型クーポン日経平均連動30年債)が含まれております。
各期における金額は以下の通りです。

2014年3月末時点 帳簿価額438億円 時価560億円 差益122億円
2015年3月末時点 帳簿価額442億円 時価575億円 差益132億円
2015年9月末時点 該当ありません。

売買目的有価証券の評価損益

(億円)

14.3末		15.3末		15.9末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
—	—	10	0	33	△3

(注) 本表には、金銭の信託等の売買目的有価証券を含んでいます。

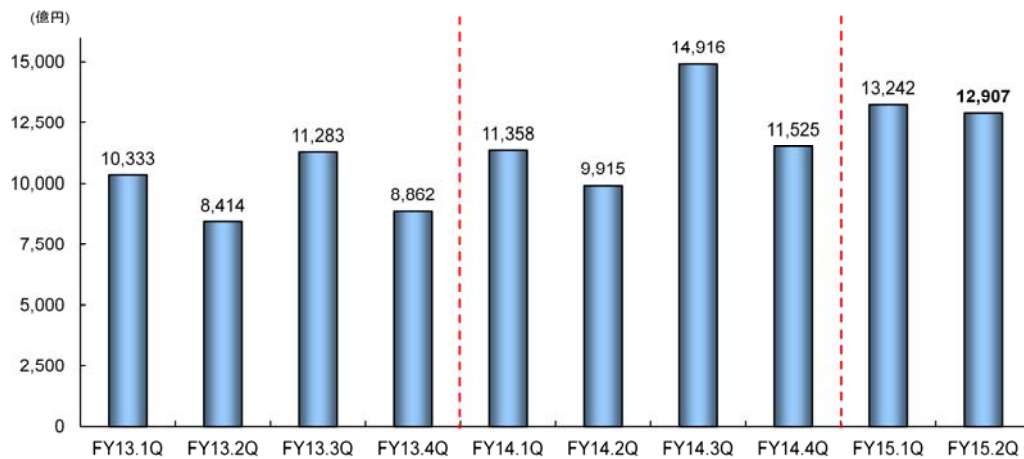
ソニー生命の利配収入内訳

(百万円)

	FY14.1H	FY15.1H	前年同期比
現預金	0	0	+185.3%
公社債	52,735	56,333	+6.8%
株式	221	263	+19.0%
外国証券	4,503	3,982	△11.6%
その他の証券	278	1,041	+273.4%
貸付	2,937	3,056	+4.1%
不動産	5,170	5,135	△0.7%
その他	32	33	+3.9%
合計	65,879	69,846	+6.0%

ソニー生命の新契約高の四半期推移

新契約高の四半期(3ヶ月)ごとの推移

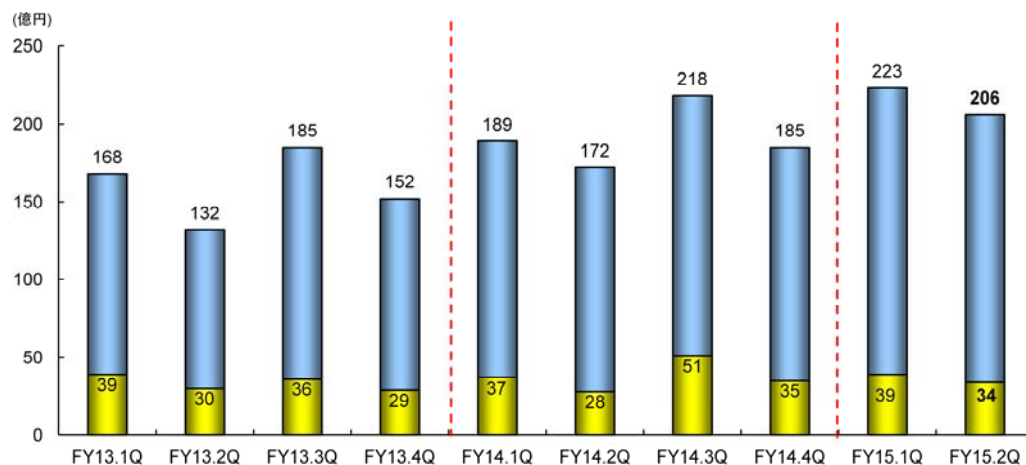


ソニー生命の新契約年換算保険料の四半期推移

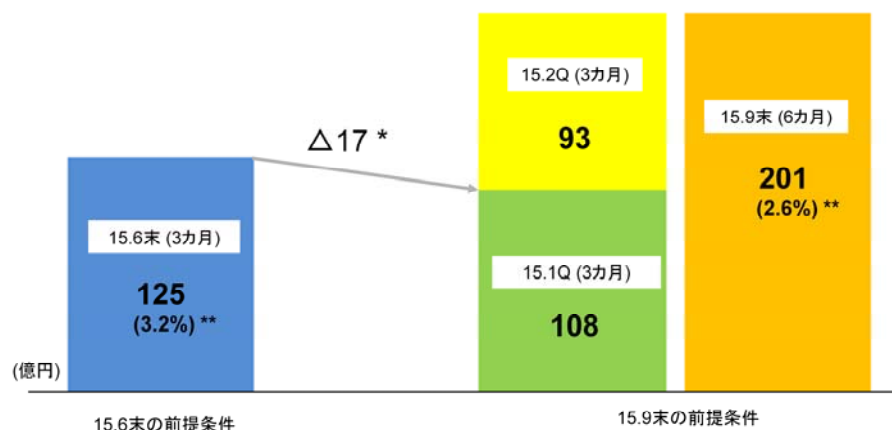


新契約年換算保険料の四半期(3ヶ月)ごとの推移

■ 新契約年換算保険料 ■ うち、第三分野



ソニー生命の新契約価値の変動について



(*) 15.6末(3カ月)の新契約価値を15.9末前提条件(金利等)で再計算した影響。
金利の低下などにより減少。
(**) カッコ内の数値は新契約マージン。

経済価値ベースのリスクの測定方法 ①

■ 市場関連リスク 注1

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QIS5)
金利リスク 右のShockを与えた時の、 経済価値純資産の変動 以下同じ。	年限と通貨ごとに異なる金利の変化率を設定。 但し、円金利は主成分分析を用いて、3つの変動要因。 (パラレルシフト、カーブのフラット化、曲がり)に分解して計測。 (例) 円30年における、それぞれの変化率は、△33%、△28%、△8%。	年限ごとに異なる金利の変化率を設定。 但し、最低下落幅は1% (例) 円30年における、変化率は△30%。
株式リスク	上場株式 45% その他証券 70%	Global 30% Others 40% 注2
不動産投資リスク	不動産 25%	不動産 25%
信用リスク	信用リスク=(時価)×(格付毎のリスク係数)×デューレーション 尚、デューレーションには格付けにより、キャップとフロアーがある。 (例) A格:リスク係数(1.4%)、キャップ(23)、フロアー(1)	同左
為替リスク	不利な方向へ30%変化。	不利な方向へ25%変化。

注1 2015年9月末現在、主要な項目。

注2 標準リスク係数はGlobal: 39%/Other: 49%。symmetric adjustment(過去一定期間の株価インデックスの平均値を基準として±10%以内で加える調整)が適用され、QIS5試行時点(2009年12月末)は30%/40%。

経済価値ベースのリスクの測定方法 ②

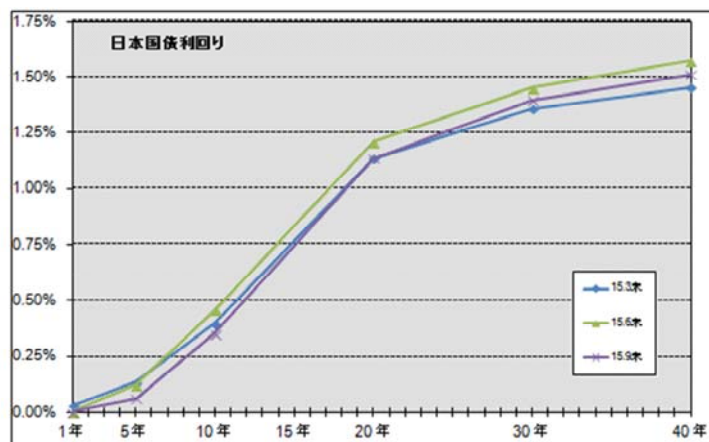
■ 保険リスク 注1

	ソニー生命	(参考) EUソルベンシー II (QIS5)
死亡リスク	各経過年の死亡率が15%増加。	同左
生存リスク	各経過年の死亡率が20%減少。	同左
解約リスク	- 各経過年の解約率が50%増加。 - 各経過年の解約率が50%減少。 - 解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%が、直ちに解約。 これらの最大値 ^{注2} 。	- Life区分50%増加、Health区分20%増加 - Life区分50%減少、Health区分20%減少 - 解約返戻金が最良推定負債を上回る契約の30%(団体年金等は70%)が、直ちに解約。 これらの最大値。
事業費リスク	各経過年の事業費が10%増加。 インフレ率が1%上昇。	同左
疾病リスク	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。	発生率が初年度35%増加、次年度以降25%増加。 回復率が20%減少。

注1 2015年9月末現在、主要な項目。

注2 ソニー生命は個別契約毎の大小比較を実施。

日本国債利回り



日本国債 利回り	15.3末	15.6末	15.9末	15.3末 → 15.9末	15.6末 → 15.9末
1年	0.03%	0.00%	0.00%	-0.03%	0.00%
5年	0.13%	0.12%	0.06%	-0.07%	-0.06%
10年	0.40%	0.46%	0.35%	-0.05%	-0.11%
20年	1.14%	1.21%	1.14%	0.00%	-0.07%
30年	1.36%	1.45%	1.40%	0.04%	-0.05%
40年	1.46%	1.57%	1.51%	0.06%	-0.06%



お問い合わせ先:
ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
広報・IR部
TEL:03-5785-1074